

熊本県立  
1996.1  
大学学報

第6号

春

秋

shunjūsai

彩



春秋彩とは  
「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の  
万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。  
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を  
彩る学園の四季を表している。





## 双葉山か貴乃花か

熊本県立大学長 手島 孝



学長 手島 孝

「近ごろの若いもんは！」いつの世でも、その時どきの古い世代が慨嘆するせりふとされています。これは順ぐりで、

彼らも若いころはそういわれたのです。昭和の20年代、われわれは戦後派—またはフランスのひそみに倣ってアプレ・ゲール、略してアプレーと軽んぜられ、戦前派や戦中派のひんしゆくを買っていました。そのわれわれが、今では、当代の若者を“飽食時代の新人類”呼ばわりしています。

しかし、今にして思うのですが、人間というものは与えられた(投げ込まれた)時代環境・社会環境の中で生きてゆくしかない。その中でどれだけ精いっぱい生

きるかこそが、評価の試金石たるべきでしょう。昔の相撲と今の相撲と、どちらが強いのか、よく話題にされます。実際に取り組ませるのはできない相談ですから、各自勝手なシミュレーションで甲論乙駁となるわけですが、私は、これは無意味な比較だと思います。その時代、時代に、所与の条件の下で最善を尽くして強かった力士が“強い”のです。双葉山と貴乃花、いずれも最強力士です。もともと、好み

# 変革があらわれ始めたキャンパスには、 新春の晴れやかさにも似たすがすがしさが感じられます。

## 客員講師による公開講演会

平成7年10月31日(火)に、米国スタンフォード大学教授ポール・バーグ博士を招き、「遺伝子の科学と21世紀」と題して公開講演会が開催された。バーグ博士は、1980年遺伝子操作技術の開拓によりノーベル化学賞を受賞しており、今回の講



ポール・バーグ氏講演会



演では、遺伝子とは何か、遺伝子研究のこれからの問題等について、スライドを交え、同時通訳付きで、一般の方々にもわかりやすく講義していただいた。講演会場の17番教室(旧講堂)は、一般・学生・その他合わせて408名の参加者で満席となり、立って聴講する学生も見受けられた。第2回目の公開講演会は、東京大学教授・上野千鶴子氏を迎え、11月17日(金)に開催された。上野先生は、「ジェンダー研究はどこまで来たか」と題して、ジェンダー(性差)研究の意味と現状等についてわかりやすく講義していただいた。また、これからの女

性の生き方についても示唆に富んだお話をしていただいた。こちらの講演会も、学生を含めて500人近い聴講者が参加し、活気にあふれた講演会となった。

さらに11月21日(火)には、客員講師制度(講義補完形式)に基づき、スウェーデン・エーテボリ大学のルツガー・ローセンバーグ博士による特別講義「海が富栄養化する生態系にどのような影響が生じるか」が行われた。



上野千鶴子氏講演会

## 第2グラウンド竣工

緑が眩しい、そんな印象の第2グラウンドで11月5日(日)に、福島県知事、中山熊本工業大学長、手島本学学長、本学学生をはじめ約250人の参加のもと、竣工セレモニーが開催された。吹奏楽部の華やかなファンファーレで幕を開けたセレモニーの中で、手島学長は「それぞれのサークル

の目標に向かって頑張ってほしい。」と今後のサークル活動への期待を述べられた。

この第2グラウンドの完成は、平成6年4月の総合大学としてのスタート以来、体育系サークルの新設が相次ぎ、練習の場が不足していた本学にとって、待ちに待ったものであった。

また、グラウンドの周囲はジョギングコースとして、グラウンド入口は小公園として、近隣住民の方々にも利用していた

だけのよう整備されている。

セレモニー終了後、本学と熊本工業大学との軟式野球親善試合が行われた。





## 大学院入試について

10月17日、本学文学部棟において大学院文学研究科前期入学試験が行われた。志願者は、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻とも募集人員3人のところ5人の志願があり、合格者は、日本語日本文学専攻1人、英語英米文学専攻4人であった。倍率は日本語日本文学専攻が5倍、英語英米文学専攻が1.25倍という結果だった。詳細は下表を参照のこと。

専攻	募集人員	志願者				受験者				合格者				入学者							
		男性	本学	他学	社会人	男性	本学	他学	社会人	男性	本学	他学	社会人	男性	本学	他学	社会人				
日本語日本文学	3	5	1	1	4	0	5	1	1	4	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0
英語英米文学	3	5	1	1	1	3	5	1	1	1	3	4	0	1	0	3	4	0	1	0	3
計	6	10	2	2	5	3	10	2	2	5	3	5	0	2	0	3	5	0	2	0	3

※表中の男性、本学、他学、及び社会人はいずれも内数である。また、本学とは本学を平成8年3月卒業見込みの者、他学とは本学以外の大学を平成8年3月卒業見込みの者である。

## 特別選抜試験について

12月9日(土)平成8年度特別選抜試験が行われた。11月6日(月)～11月10日(金)に願書の受付を行い最終的な出願状況は、推薦入試については、日本語日本文学科17人、英語英米文学科16人、食

物栄養学科18人、総合管理学科102人の計153人。社会人のための特別選抜については、日本語日本文学科4人、英語英米文学科4人、食物栄養学科1人、総合管理学科2人の計11人。帰国子女特別選抜については、英語英米文学科に1人

出願があった。推薦入試の定員は、日本語日本文学科4人、英語英米文学科4人、食物栄養学科6人、総合管理学科50人、社会人、帰国子女については各学科若干名となっている。

## 地域講演会について

平成7年度の熊本県立大学地域講演会が県内3ヶ所(玉名郡長洲町、天草郡龍ヶ岳町、球磨郡相良村)で開催された。この地域講演会とは、本学の先生が県内の各地域(年に3ヶ所程度)に出向いて、その地域の皆さんを対象に特別に設定されたテーマについて講演を行うものであり、県民に開かれた大学という視点にたち、県民の方々の生涯学習に対する意欲に応えることを目的としている。

昭和59年度から始まり、今年で12年目を迎えた地域講演会は、平成7年度まで延べ

30市町村で57講座が開かれ、3,715人が受講している。

今年度のテーマと講演者は、「私たちの健康と食生活」(生活科学部・矢住講師)、「高齢者の健康と食生活」(生活科学部・鈴木助教授)、「三日坊主も悪くない!～人生100年時代の健康・体力づくりを考える～」(生活科学部・重松三和子助教授)、「源氏物語等平安時代の文学」(文学部・竹原教授)、「現代社会と青少年問題～よくできる子とよくできた子～」(総合管理学部長・米沢教授)であった。専門的な内容が地域の皆さん

に分かりやすく面白く講演され、参加者は地域に大学の授業がやってきたと、各会場では皆熱心に聞き入っていた。



## 公務員講座開講式

平成7年10月2日(月)、大講義棟1F大講義室において、2年次対象の公務員講座の開講式が約200人の受講者を集めて行われた。学生部長の挨拶に続き、学生課長から公務員の厳しい合格状況についての説明があり、最後に担当から講座の具体的な受講方法につい

での説明があり終了した。本講座は、公務員志望の学生のために設けられた特別講座で、前期は、ビデオ講義と学内教員による解説講義を組み合わせ、来年7月までほぼ週2回のペースで実施。後期は、3年次10月から4年次5月までセミナー形式で実施予定。

## ボイド駐日英国大使夫人へ「熊本県立大学長学術文化賞」授与

平成7年11月20日、本学大講義室でハンセン病救済に生涯を捧げた英国女性リデルの伝記「ハンナ・リデル 日本に住んだ英国女性」を日英両語で出版したレディー・ボイド駐日英国大使夫人に学術文化賞が授与され、授与式に引き続き大使夫人による記念講演が行われた。



## 学術研究活動

本学では学術の振興を図るとともに地域社会に積極的に貢献するための研究を奨励、促進するために、独自の学術振興制度として地域貢献研究事業を設けている。

これは、(1) 地域振興支援研究 (2) 学術高度化研究 (3) その他研究事業の趣旨に沿った研究等、といった3種類の研究を対象としており、そのための経費として平成7年度に2,600万円を予算に計上

し、33件の交付を決定している。また、国の制度である科学研究費補助金5件700万円の交付も受けている。詳細は以下のとおり。

平成7年度  
地域貢献  
研究事業

	所 属	職 名	氏 名	研究課題	所 属	職 名	氏 名	研究課題
(1) 地域振興支援研究	生活科学部	教授	亀山 春	過酸化脂質の少ない健全性に優れた新規大豆食品の開発	総合管理学部	教授	今野 登 他9人	経済国際化と地域開発
	生活科学部	教授	太田 直一	過酸化脂質の少ない健全性に優れた新規大豆食品の開発	総合管理学部	教授	野村 武 他6人	日赤・熊本健康管理センターの「人間ドック」による県民の健康増進活動によって蓄積されたデータを活性化させる情報システムの研究開発
	生活科学部	教授	大岡 敏昭	都市における明治以降の独立住宅の展開過程・都市地域性の成立と展開	(1) 計	6件		
	生活科学部	講師	白土 英樹	球磨焼酎香気の客観的評価法の構築に関する研究				

(2) 学術高度化研究	文学部	助教授	三木 悦三	言語研究と「意味」の位相	生活科学部	助教授	鈴木 公	卵黄油の血清脂質濃度改善作用に関する研究
	文学部	助教授	砂野 幸稔	セネガルにおけるフランス語使用：その歴史	生活科学部	教授	中島熙八郎	「農村型リゾート」の生成過程に見る地域・自然資源認識及び活用状況に関する調査研究-全国自治体事例を中心に
	文学部	講師	山田 俊	電算処理による「漢字」文献の研究	(2) 計	6件		
	生活科学部	教授	飯尾 雅嘉	卵殻膜からの抽出物が「癌細胞」の自然死(アポトーシス)をもたらす効果について				

(3) その他研究事業	生活科学部	教授	大岡 敏昭	著書「住空間のデザイン原理と計画」の出版	総合管理学部	助手	小泉 和重	アメリカの政府間財政関係と州税制
	総合管理学部	教授	渡邊 榮文	行政学のデジャ・ヴー-ボナン研究-	文学部	助教授	馬場 良二	外国人子女のための日本語教育教授法に関する研究
	文学部	助教授	星乃 治彦	「1989年」をくぐった社会主義論	生活科学部	教授	中島熙八郎	いくさ・曇表の需要を拡大する方策について
	生活科学部	助教授	鈴木 公	ビタミンB6欠乏ラットの肝臓及び骨格筋におけるglycogen phosphorylaseの遺伝子発現	生活科学部	助教授	村上 良知	山間農村における高齢者住宅・施設の整備モデルに関する研究
	生活科学部	助教授	堤 裕昭	イトゴカイの生物活性を用いた魚類養殖漁場環境の改善技術について	生活科学部	助教授	堤 裕昭	水産生物の資源量解析用ビデオ画像解析システムの開発及びアサリ漁場保全への適用について
	総合管理学部	教授	丹生谷 龍	いわゆる「終身雇用」制度の変遷について	総合管理学部	教授	今野 登	企業の立地プロセスを探る
	総合管理学部	教授	Tomlinson, David	日本人大学生のディスレクシアについて	総合管理学部	教授	米澤 和彦	地域活性化の評価手法に関する研究
	総合管理学部	教授	藤尾 好則	情報システム開発方法論の教育とその教材の研究	総合管理学部	教授	丹生谷 龍	勤務条件に関する公務員と民間の比較研究
	総合管理学部	助教授	森 美智代	ドイツにおける国際会計の問題点	総合管理学部	教授	石橋 敏郎	地域福祉分野における、北欧、米国、日本の比較社会学研究
	総合管理学部	講師	黄 在南	「日本企業のアジア化をめぐる分析視点」	(3) 計	21件		
	総合管理学部	講師	木原佳奈子	市町村における福祉政策ネットワークの構造と動態-高齢者福祉改革をめくって-	(1)(2)(3)総合計	33件		
	総合管理学部	講師	井田 貴志	コモンプールと環境政策				

平成7年度  
科学研究  
費補助金

生活科学部	教授	大岡 敏昭	都市独立住宅の配置・平面原理に関する計画的な研究	生活科学部	助教授	堤 裕昭	化学合成による一次生産を利用する底生生物が沿岸域の有機汚泥中に生息する可能性
文学部	助教授	馬場 良二	韓国人学習者の「なまり」を取り日本語の「流れ」を身につけさせる理論と方法の構築	文学部	講師	山田 俊	唐代道教思想史に於ける「得道」観「聖人」観の変遷
生活科学部	助教授	乙益 絹代	換気カプセル法による布片被覆皮膚の発汗解析				



## 第31回白亜祭

第31回白亜祭が、11月11日・12日の両日開催された。前日の準備時に雨に襲われ、天候が心配されたが、両日も前日の雨が嘘のように晴れわたり、多くの来場者でにぎわった。

今回の白亜祭のテーマは、「翔～MOCCOSとOTEMOの主張～」で、地域に開かれた学園祭をめざし、熊本の独自性・地域色を色濃く打ち出し、未来ある学生の明日へのはばたきを表現した。

会場となったキャンパスでは、各学科・サークルごとに趣向を凝らした模擬店



や住宅模型・ウエディングドレスなどの展示発表会があり、広場から教室から終日楽しそうな笑い声が聞こえていた。また、今年も地域バザーを出展し、菊鹿町・矢部町・小国町の3町から町の特産品の数々が集まった。白亜祭での地域バザーは、今年で6年目。テーマに掲げた、地域に開かれた学園祭を代表する企画の一つである。

ステージを中心に行われた本部企画は、11日のオープニングから「学科対抗クイズ」、「ミスター白亜コンテスト」

が行われた。栄えある2代目のミスター白亜に輝いたのは総合管理学科1年の黒田辰也くん。午後からは「地域企画」として、熊本の銘酒で「利き酒大会」が開催され、熊本県観光振興課の協力を得て、県産酒のアピールが行われた。続いて、熊本県出身のアーティスト「樋口一-LIVE」を開催。本学フォーク研究会とのセッションもあり、会場は大い



に盛り上がった。

12日は「TECNO LIVE」、「ストリートバスケット3on3」の予選・決勝、午後1時から恒例の「ミス白亜コンテスト」「Jazz LIVE」そしてフィナーレと花火の打ち上げが行われた。今年のミス白亜に輝いたのは総合管理学科1年の平居佳子さん、3on3の優勝チームは「MONEY」だった。

男女共学となつて2年目となる今回の学園祭は、男子のスタッフも増えてさらにパワーアップし、今までとはひと味違った活気のある学園祭となった。

## お知らせ

### ●第16回スポーツ教室開講

平成7年10月23日(月)から11月24日(金)まで第16回スポーツ教室が開講された。この教室は、初心者的一般県民を対象に、健康づくりのための適度な運動の強さや運動量について学び、ショートテニスなどの軽スポーツを通して、健康管理について考えようというもの。今年の参加者は18人ですべてが女性の参加者だった。

### ●軟式野球同好会へ全国大会参加助成金交付

本年8月に香川県高松市で開催された軟式野球全国大会に参加した軟式野球同好会に対し、11月13日(月)学長応接室において、全国大会参加助成金の交付が行われた。今年は全国大会初出場に加えての初勝利とはいかなかったものの、努力を重ね近い将来に1勝できるようがんばってもらいたい。

### ●総合管理学部講演会

平成7年11月22日(水)、福岡国際ホール(福岡市中央区天神)において、福岡県内企業の人事担当者等を対象とした総合管理学部主催の講演会が開催さ

れた。出席者約60人を前に、西日本新聞社客員論説委員・坂井孝之氏が「21世紀への期待～人材開発をめぐる～」の演題で講演後、手島学長が本学の概要説明を行い、同学部教授らが出席者との意見交換を行った。



## メッセージコーナー

### 図書館から

10月からカウンター内のパソコンにより熊本県立図書館の検索が可能になりました。詳しくは、カウンターまで申し出て下さい。

### ネットワーク運営組織から

学内LAN端末から利用できる図書検索システムに、新しい機能が加わっていますのでご紹介します。利用者端末の操作方法が変わりました。利用者のユーザーIDとパスワードが必要です。また、図書検索システムを立ち上げ、図書を書名

や作者やキーワードで検索し、該当する書誌が見つかった場合、その書誌の詳細情報を表示しているときにEnterキーを押すと表示されている図書の貸し出し情報が表示されます。もう一度Enterキーを押すと元の詳細情報画面に戻ります。

熊本県立大学の主な行事  
(H8.1～H8.5)

- 1月 10日 授業再開  
13日 センター試験（～14日）  
30日 学生後期試験（～2月9日）
- 2月 16日 私費外国人留学生、大学院(後期)入学試験  
25日 前期日程入学試験
- 3月 12日 後期日程入学試験  
15日 卒業式  
25日 春季休業（～4月8日）
- 4月 10日 入学式  
12日 授業開始
- 5月 2日 開学記念日



熊本県立大学